

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立栗原中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	対象	ド訓	救臨災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
70,530	20,207	非該当	7：1	

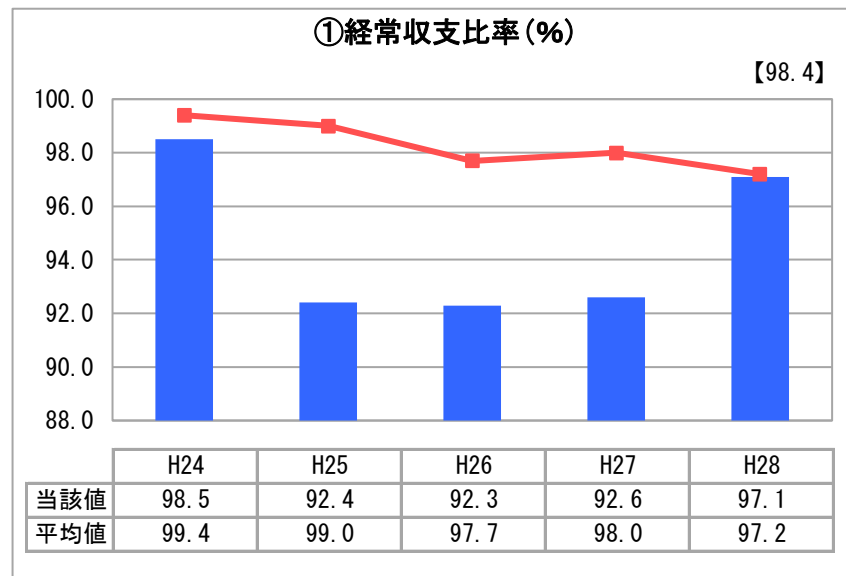
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

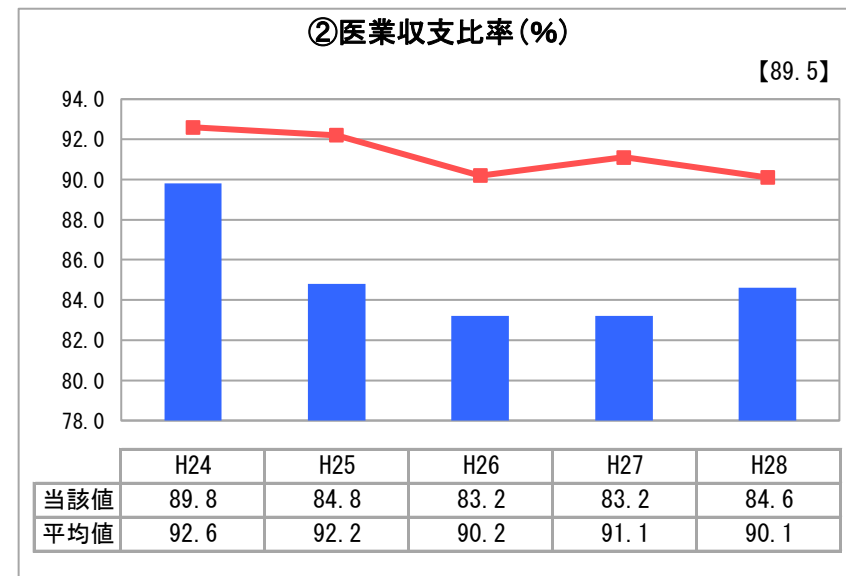
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
250	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
222	33	255

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

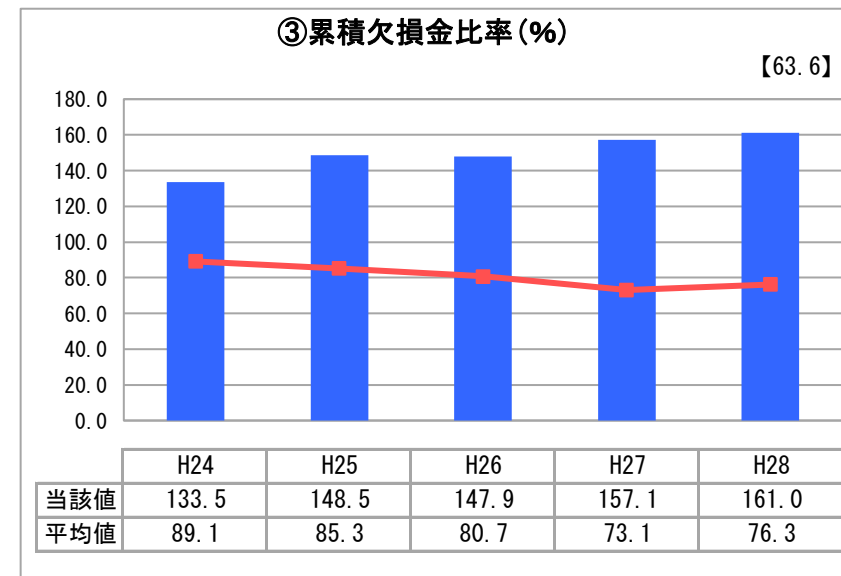
## 1. 経営の健全性・効率性



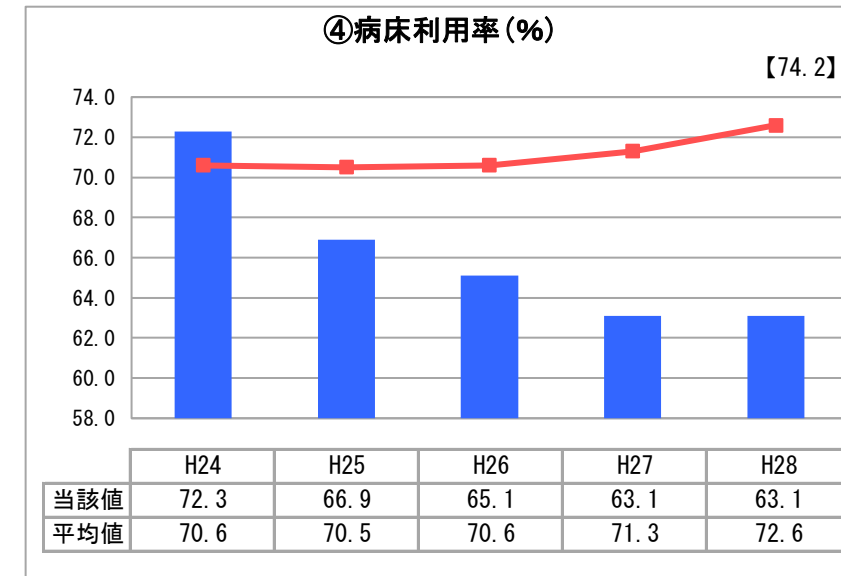
「経常損益」



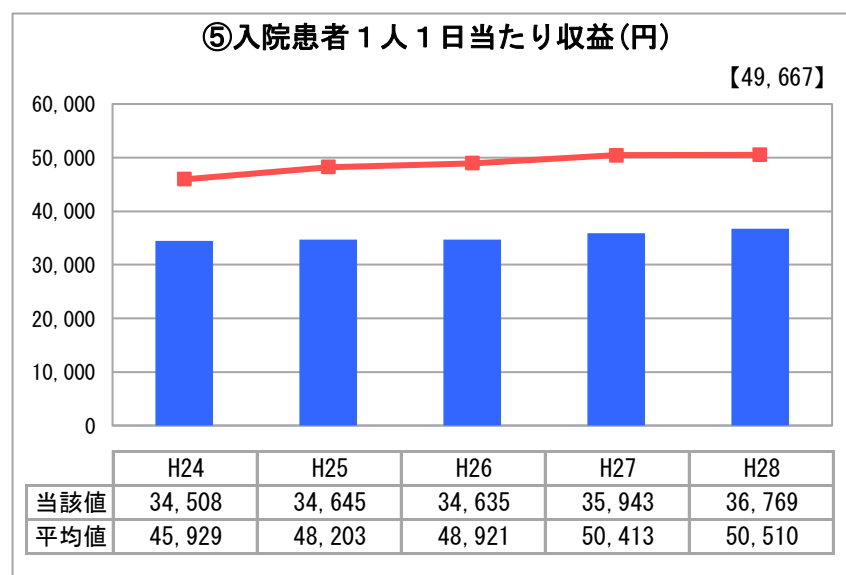
「医業損益」



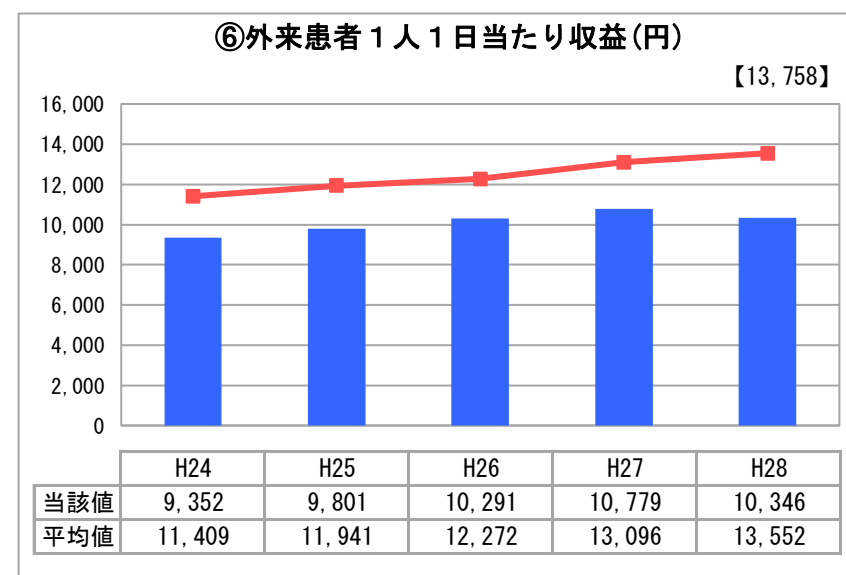
「累積欠損」



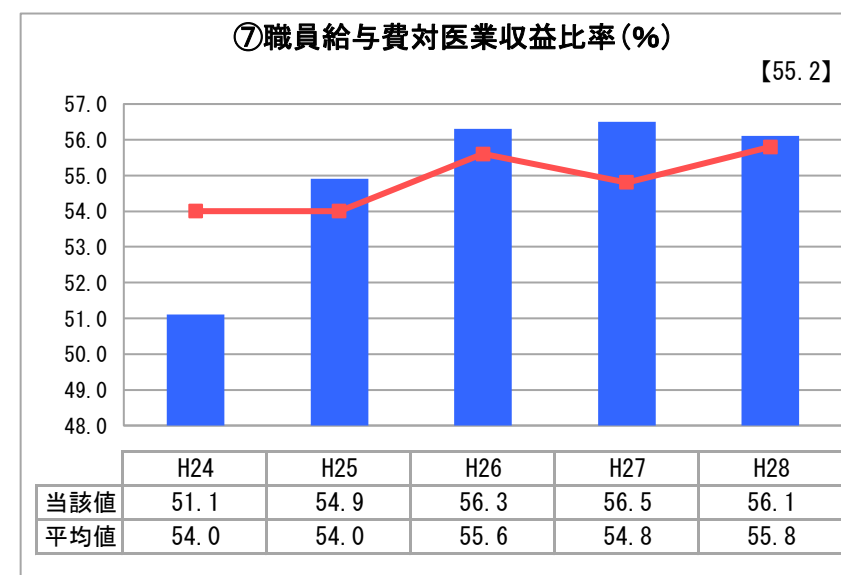
「施設の効率性」



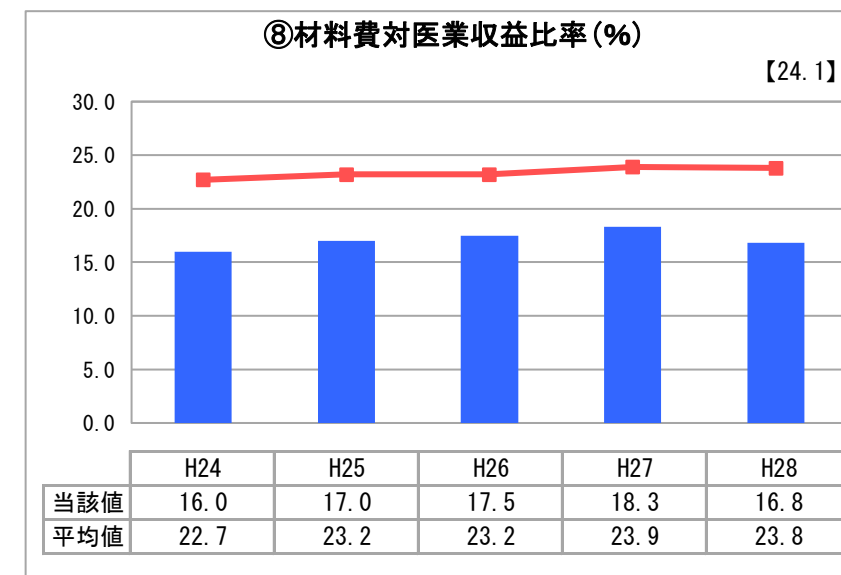
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

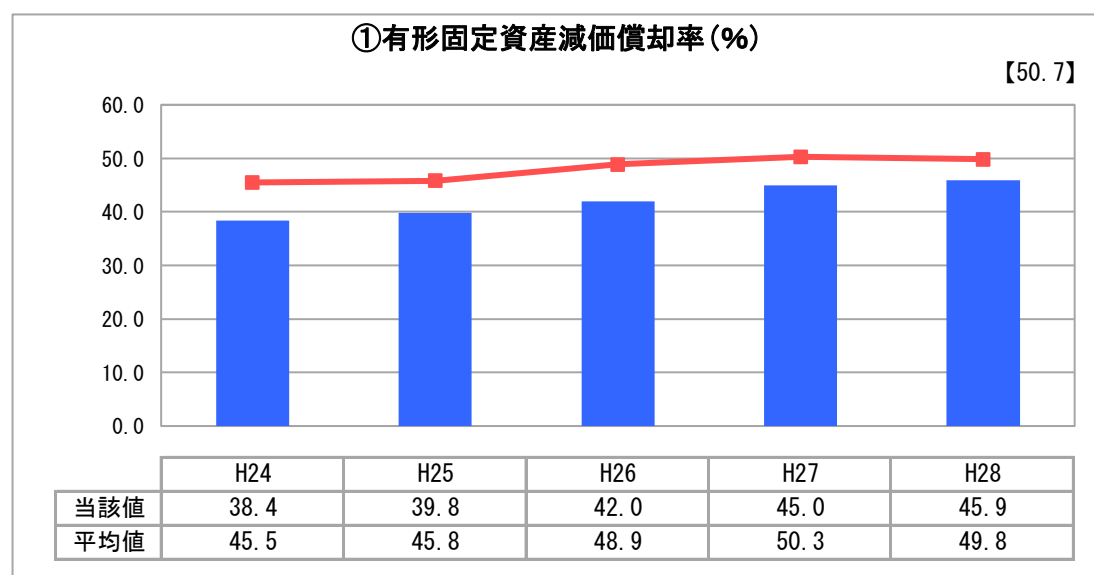


「費用の効率性①」

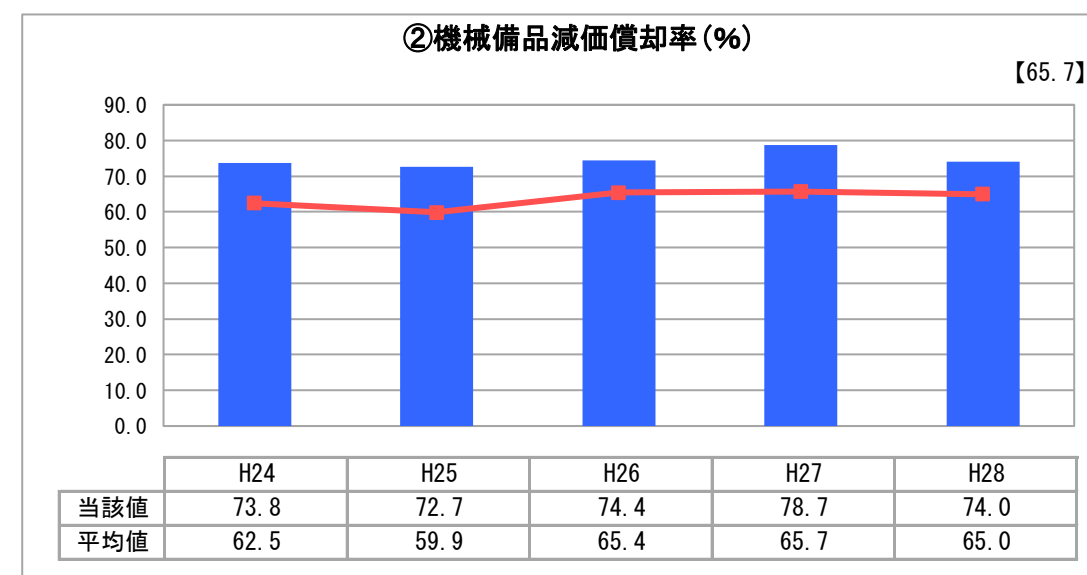


「費用の効率性②」

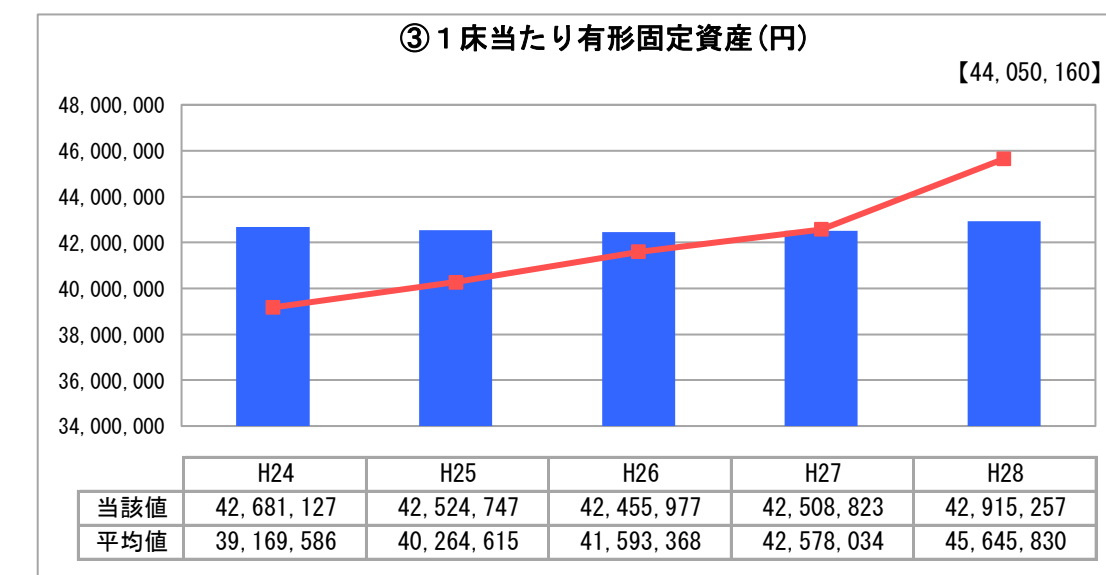
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

地域の中核病院として高度医療及び二次救急医療の提供。  
急性期医療を中心に、小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療・災害拠点病院・基幹型臨床研修指定病院としての役割。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率が70%未満で推移しており、経常収支比率が100%に届かない現状である。  
病床利用率が低い要因としては、常勤医師不足、施設基準の改定による平均在院日数の短縮等が考えられる。  
累積欠損比率は年々上昇してきており、類似病院と比較しても倍以上の数値となっており、更なる経営の効率化が必要となっている。  
入院収益の1人1日当たり収益は地域包括ケア病床の通年運用等により増加しているが、外来収益の1人1日当たり収益は、患者数の減に加え、肝炎治療薬を院外処方としたことにより減少したと考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

開院より14年が経過し、医療機械や冷暖房設備等の老朽化が目立ってきている。  
個別の故障については、その都度修繕により対応しているが、計画的な医療機器や設備の更新が必要となっている。

## 全体総括

常勤医師の招へい等により病床利用率を高め収入増を図ると共に、医薬品や診療材料購入費・委託費等の適正化により経費削減を図り、一層の経営改善を行う必要がある。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。